

弓場 秀昭様

今回のトラブルについて弓場様よりご依頼頂き、色々と議事録を作成させて頂きました。ご依頼頂いたお蔭で全容が分かり、どうしてこのような結果になってしまったのか、また問題点は何なのか冷静に考える機会を得ました。

私は10月6日にあさひ・はなまる訪問介護ステーションを訪問し、訪問介護事業所から利用者様に対する誹謗中傷を聞いて完全に冷静さを失ってしまいました。冷静に対応することが出来なかったのは何故なのか、私なりに考えてみました。

訪問介護事業所、通所介護事業所など現場サイドは利用者様にお会いする頻度も多く、密接な関係を築くことが出来ます。それに比べて介護支援専門員は月1回（多くても数回）の訪問でなかなか利用者様の事を把握できないのが現状であり、時間をかけて利用者様に寄り添うというプロセスがあります。それ故、介護支援専門員は現場サイドの情報に依存してしまう傾向があり、鵜呑みにしがちだということが言えます。

6日に聞いたことは訪問時の私に対する弓場様の紳士的な態度からは想像もできない事柄にもかかわらず、利用者様により身近な存在である訪問介護事業所からの言葉であった為、冷静さを失い鵜呑みにしてしまい本来利用者様を守るべき立場でありながら守ることが出来なかったことが一番悔やまれる事であります。この度は大変申し訳ございませんでした。

平成28年3月1日

プライマリーケアプランセンター阪南

津田 香里



弓場 秀昭様

プライマリーケアプランセンター阪南 介護支援専門員 津田より一言お詫び申し上げます。本日は弓場様に対し失礼な行動をとったことに対し深くお詫び申し上げます。

私は、平成 27 年 10 月 6 日から 8 日に掛けまして、いつもお世話になっている弓場様に対し正しい情報を伝えず、介護支援専門員としてあるまじき粗相をしてしまいました。今回の失礼が起きた経緯を述べさせていただきます。

平成 27 年 10 月 6 日、訪問介護事業所 あさひ・はなまる訪問介護ステーション 西口代表より訪問を要請され事業所に出向きました。そこで別紙にあったようなことを聞かされ、情に流されて一方的な主張を鵜呑みにし、弓場様に事実の確認をしませんでした。それは私の本意ではありませんでしたが、7 月以来関係性の悪い状態が続いていた事業所から色々と言葉をかけられ、本来の業務を逸脱してしまったと思います。その時にどうして冷静になれなかったのかは今でもわかりませんが、あさひ・はなまる訪問介護ステーションとの話し合いにより向う見ずで安易に拙速に行動しようとしてしました。上司である角野からの指導もあり、今回は弓場様にご迷惑をかける事は回避できましたが、結果的には弓場様のお気持ちを逆なでする結果になってしまいました。私はあさひ・はなまる訪問介護ステーションの要望にお応えするようにいたしましたが、8 日に連絡を取って以来先方からは連絡を絶たれており本来の業務が出来ないまま今に至っております。今は弓場様のご指示を頂いて何とか業務を続けさせていただく形となっておりますが、まずは今回の事について事実経緯を別紙にて届けさせていただきます。この度は大変申し訳ございませんでした。

平成 28 年 3 月 3 日

プライマリーケアプランセンター阪南

津田 香里

